様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２８４６

研究課題名（和文）スピリチュアリティと自己決定理論による英語学習自律化メカニズムの理論構築

研究課題名（英文）Theorization of Developing L2 Learner Autonomy: Derived from Spirituality and Self-Determination Theory

研究代表者
金岡　正夫（Kanaoka, Masao）

鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・教授

研究者番号：００３１１１１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究課題はthe inner self(自己内面性)に目を向け、spirituality（価値観、信念、信条）によるself-determination（SD）（自己決定）が英語学習の自律化に寄与するメカニズムを明らかにし、学習動機づけ―学習自律化への新たな理論構築にある。1年目は課題に関する理論構築作業を終え、2年目はそれをふまえたシンポジウムを国際学会（大学英語教育学会JACET国際大会）で開催した。同時に3つの大学間で大学生を対象としたアンケート調査を実施した。3年目は理論をふまえた授業モデルを構築し、大学授業で導入し、教育効果を検証した。3年間におよぶ成果報告書を最後に作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
英語学習の自律化と動機づけは表裏一体の関係にある。これをふまえ、これまでの「外の世界（英語圏、母語話者、異文化）」に依存した教育観と学習動機のベクトルから離れ、学習者の自己形成、とりわけ内面性（信念、価値観などのスピリチュアルな部分）を高めていく動機づけと自律的な英語学習の実現をターゲットにした。そこでは学習目的、方法、プロセス、到達評価など、統合的英語学習能力の獲得が重視され、同時に一人の人間としての成熟が重視される。この有機的なつながりは、「自己成熟（確かなアイデンティティ構築）＝言語成熟（統合的英語学習の自律化）」の実現でもあり、それにむけた学習メカニズムの構築は不可欠といえる。

研究成果の概要（英文）：　This study focused on the development of autonomous L2 learning practice, which might be actualized through the nurture of spirituality (i.e., beliefs and senses of value) and self-determination (SD). Anchored in this perspective, the following engagements were accomplished.
[1st year]: Literature review for the theorization of integrated teaching and learning methods relevant to autonomous L2 learning practice derived from spirituality and SD. [2nd year]: A symposium (i.e., as part of interim report) in the JACET International Convention in Tokyo (August, 2017). Also, a questionnaire survey targeting students of three different universities, as part of preparing a classroom-based pilot study in the following year. [3rd year]: The pilot study targeting first-year students, together with the analysis of L2 teaching methods and L2 learning progress utilizing several questionnaire surveys (pre and post, and after the study). The final report was published.

研究分野：英語教育（カリキュラム、教授法）

キーワード：PICT（英語学習者の自己形成とコンテクスト　spirituality（スピリチュアリティ）　自己決定理論　自律的学習者　L2 motivation（英語学習動機づけ）　contextualization（文脈化）　L2 strategies（英語学習方略）　self-development（自己成長）

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

非英語話者（L2, ESL, EFL learners）に対する動機づけ研究は、外発・内発的動機づけと道具的・統合的動機づけによる行動主義から、学習者の主体性（agency）を自律的かつ系統的に高めていく学習文脈 (context) を重視する社会構築主義カリキュラムへパラダイムシフトしている。それは自己存在意義（レゾン・デートル）の確立と思考・発信・省察としての英語使用を同時に展開していく知識とスキルが、グローバル時代の英語学修能力として求められていることを指す。すなわち言語成熟（language maturity）＝自己成熟（self-maturity）の同時獲得にむけた、agency, self-identity, authenticity, context, L2 motivation, L2 autonomy の統合的研究アプローチの重要性である。

２．研究の目的

[理論的領域]

(1) 大学教育と英語教育における spirituality（信念、価値観）の位置づけ（定義）。それゆえ「個人（私）」、「社会（公）」、「功利（智）」、「倫理（徳）」の視点から spirituality を捉え、具現化していく。(2) 自己形成（エゴ＆社会的自我）に向けた spirituality の役割と自己決定（self-determination: SD）との関係性。教養性（liberal arts）や宗教観も巻き込みながら、その役割の正統性と SD との連動可能性を明らかにする。(3) 学習動機と学習自律化に向けた spirituality の役割と、これら 3 つの要素の関係性を解明。(4) 1.～3.の包括的理論体系の構築（spirituality, SD を基点とした自己形成、学習動機、学習自律化メカニズムの構築—大学 EFL 授業と日本人学習者を念頭に）(5) 理論体系の見直し（考察と修正）—日本人大学生へのアンケート調査（理論体系の内容をもとにした問題点の検証：回答結果の考察をふまえた理論的修正）。(6) 理論体系の再構築と確認アンケート調査（問題点の修正確認）

[臨床（実証）的領域]

(7) 上記理論にもとづく大学英語授業のデザイン化（カリキュラム、教授法、学習方法・プロセス）。(8) パイロットスタディ（e.g. 大学 1 年生対象：半期英語授業を利用）：①自己成熟、②言語的成熟、③学習動機、④学習自律化の変化・成長を調査・分析（事前・事後、量的、質的手法—インタビュー含む）。(9) 8. をふまえた理論体系の拡大と再構築（授業・学習実践上の新たな知見の追加）。(10) 理論編と臨床編による spirituality, SD 介入による新たな学習動機づけ—学習自律化メカニズムの提示（日本人大学生 EFL learners を対象）。成果報告書の完成。

３．研究の方法

本研究は 3 年計画で行う。(1) 1 年目（H28）に spirituality と SD に照射した動機づけ—学習自律化メカニズムの理論的精査と包括モデルを構築し（spirituality, motivation, autonomy, self-theories, EFL contexts, L2 & higher education 対象）、理論上の問題点洗い出しと修正を行う（EFL learners 対象アンケート調査：3 大学から抽出：以下参照）。(2) 2 年目（H29）は理論的メカニズムをもとに臨床（授業による検証）準備に入る。同時に中間成果報告として、理論編の成果を発表する（e.g. 学会シンポジウム企画）[前半]。そして大学英語授業を用いてメカニズムの検証に入る [後半]。(3) 3 年目 (H30) は臨床結果をまとめ、理論モデルと統合し、最終成果報告（和文、英文）を作成する。基督主義の米国大学の授業視察をし (spirituality & L2, ESL)、比較考察を行い、知見を加える。

４．研究成果

本研究課題は the inner self(自己内面性)に目を向け、spirituality（価値観、信念）による self-determination (SD)（自己決定）が英語学習の自律化に寄与するメカニズムを明らかにし、学習動機づけ—学習自律化への新たな理論構築にある。1 年目は課題に関する理論構築作業を終え、2 年目はそれをふまえたシンポジウムを国際学会（大学英語教育学会 JACET 国際大会）で開催した。同時に 3 つの大学間で大学生を対象としたアンケート調査を実施した。3 年目は理論をふまえた授業モデルを構築し、大学授業で導入し、教育効果を検証した。3 年間におよぶ成果報告書を最後に作成した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　7　件）

1. Masao KANAOKA (2019). Pedagogical Attempt to Promote Japanese College EFL Learners' Self-Growth. SiSAL Journal, 10(1), 61-78. （査読有）

2. Masao KANAOKA (2018). College ELT Adapted from PICT and Spirituality: Pedagogical Impacts in Promoting Maturity-Aimed L2 Strategies and L2 Use through Self-Development. Annual Review of English Learning and Teaching, 23, 19-42. （査読有）

3. Masao KANAOKA; Ema USHIODA; Atsuko WATANABE; Chihiro KATO (2018). Person-in-Context Theory and Spirituality in the Japanese College EFL Contexts: Implications from Theory, Survey, and ELT Practice. JACET International Convention Selected Papers Volume 5, 178-197. （査読有）

4. Masao KANAOKA (2017). A Person-in-Context Theory (PICT), Spirituality, 1C2As for 4As

Framework: Implications for College ELT and the Revision of L2 Motivation Instrumentation. Annual Review of English Learning and Teaching, 22, 35-54. （査読有）
5. Masao KANAOKA (2017). L2 Motivation and Spirituality in College ELT: Changing L2 Learning and L2 Self With a Self-Determined Message. Annual Review of English Language Education in Japan (ARELE), 29, 1-16. （査読有）
6. 金岡正夫 (2016). 共通教育英語のリ・デザイン化―カリキュラムの実質化と英語授業の系統化―鹿児島大学教育センター年報第 12 号, 16-31. （査読無）
7. Masao KANAOKA (2016). A New Perspective on L2 Motivation and Learner Autonomy: Ema Ushioda's Theoretical Notions and Implications, with the Optimization of the Japanese College EFL Contexts in Mind. Annual Review of English Learning and Teaching, 21, 31-53. （査読有）

〔学会発表〕（計　8　件）
1. 金岡正夫、横山彰三、大倉秀心、牧原勝志、塩澤広子 (2018). グローバル基準の学習能力と動機づけをふまえた英語授業の理念と実践―導入英語（小）、受験英語（高）、専門英語（大）の融合を視野に―第 47 回九州英語教育学会 (KASELE) 鹿児島研究大会
2. Masao KANAOKA (2018). The Effects of PICT-Spirituality Contexualization in Nursing EMP: Transformation of L2 Self, L2 Strategy, and L2 Use. 2018 PKETA International Conference "Technology-mediated Language Learning" (Korea).
3. Masao KANAOKA (2018). A New Concept of EMP, PICT, and Spirituality: Toward Self- and Language-Development in Nursing. 大学英語教育学会(JACET) 第 57 回国際大会.
4. 金岡正夫 (2018). Ema Ushioda の PICT 動機づけ理論―解説と授業モデルへの試論（EMP を媒体に）―大学英語教育学会（JACET) 九州・沖縄支部 2018 年度特別研究会.
5. Masao KANAOKA (2018). L2 Motivation and Spirituality in College ELT: Changing L2 Learning and L2 Self Using a Self-Determined Message. Psychology of Language Learning 2018 PLL3 "Stretching Boundaries."
6. Masao KANAOKA; Ema USHIODA; Atsuko WATANABE; Chihiro KATO (2017). Integration of Person In Context Theory (PICT) and Spirituality: Aimed at Establishing Tangible Self-Awareness of L2 Motivation toward Self-and-Language. 大学英語教育学会 (JACET) 第 56 回国際大会. シンポジウム（共同・英語）.
7. 金岡正夫 (2016). Context, Agency, 技能統合、ルーブリックを包括した系統的英語カリキュラム. 大学英語教育学会 (JACET) 第 28 回九州・沖縄支部研究大会.
8. Masao KANAOKA (2016). English Leaning Motivation as What and for What? A Critical Analysis and Discussion of Questionnaire Items on Spirituality and Social Constructivism. 大学英語教育学会 (JACET) 第 28 回九州・沖縄支部研究大会.

〔図書〕（計　0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：加藤千博
ローマ字氏名：Kato Chihiro
所属研究機関名：横浜市立大学
部局名：総合科学部国際教養学系
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：20638233

(2)研究分担者
研究分担者氏名：渡辺敦子
ローマ字氏名：Watanabe Atsuko
所属研究機関名：文教大学
部局名：文学部英米語英米文学科
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：70296797

(2)研究協力者
研究協力者氏名： エマ・ウシオダ（英国ウォーリック大学教授、Ph.D.）
ローマ字氏名：Ema Ushioda

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。